


# 10. 宮城県蔵王町

# 1. 地域概要


対象地域	宮城県蔵王町遠刈田温泉エリア			
申請主体	宮城県蔵王町			
計画名	蔵王ジオパークを活用した「宮城オルレ 蔵王・遠刈田温泉コース」におけるオーバーツーリズム未然防止による満足度向上推進モデル			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	1,642	1,309	1,422
	- 国内	1,621	1,270	1,365
	- 訪日外国人旅行者	21	39	57
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵王国定公園の東部に位置する蔵王町は、蔵王ジオパークである御釜や樹氷など自然資源が豊富であり、国内旅行者のみならず近年では訪日旅行客も増えている</li> <li>蔵王町に有する遠刈田温泉は、江戸時代から続く温泉地であり、そのエリア全体が観光の中心となっている</li> <li>宮城オルレ蔵王・遠刈田温泉コースを開設し、住民の生活や地域の文化・歴史、エリアならではの自然を五感で楽しむ観光コンテンツを地域住民とともに造成する</li> </ul>			
協議体制	<b>協議の場</b>			
	個別協議の場を設けて、各課題について聞き取りや協議を実施（事業者・住民関係者・地域活動団体）			
協議体制	<b>参加者</b>			
	<b>行政機関等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県蔵王町 農林観光課</li> </ul>	<b>地域事業者</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人 蔵王町観光物産協会</li> </ul>		
	<b>地域活動団体</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮城蔵王ガイド協会</li> <li>蔵王古道の会</li> <li>蔵王ジオガイド</li> </ul>	<b>住民関係者</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>七日原行政区</li> <li>遠刈田行政区</li> </ul>		

### エリアマップ

蔵王ジオパークセンター



蔵王町観光案内所




遠刈田温泉「神の湯」






地理院地図


出典：国土地理院の地図データを加工して作成



蔵王ハートランド



蔵王酪農センター



みやぎ蔵王こけし館

## 2. 課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 手ぶら観光未整備による 利便性の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>仙台駅からの直行高速バスの運行でアクセスは良いが、大きな荷物を預ける設備が無いためストレスとなっている</li> <li>観光案内所では一時的な荷物預かりは実施しているものの、業務外のサービスであるためセキュリティーや管理の整備がなく、トラブルになる可能性がある</li> </ul>	観光客 観光案内所
2. マナー違反行為への 地域住民の不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>オルレのコースでは住民生活道路や私有地の使用があり、地権者への承諾を得ているが、マナー違反行為等に対する不安の声が聞かれた</li> </ul>	地域住民
3. 地域住民の理解 不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで町広報誌や該当エリアでの住民説明会を通して周知し、理解促進を図ってきたが、観光客の受入態勢までは整っていない</li> <li>訪日外国人旅行者の受入への不安や理解不足があり、積極的な関わりが薄い</li> </ul>	地域住民 観光事業者

## ① 手ぶら観光未整備



観光案内所内での一時的な預かり状況

## ② マナー違反行為への不安



私有地を歩くオルレコース

## ③ 地域住民の理解不足



コース造成にかかる住民説明会

## 3. 背景・要因

## 主な背景・要因

1. **多様な観光客層の変化**
    - ・ これまでは自家用車が主であった交通手段が公共交通機関を利用した観光客が増加している
    - ・ 近年では若年層や訪日外国人旅行者が増加しているように見える。これにより、従来のサービスでは需要に対応しきれない状況が発生している
- 
2. **新規観光コンテンツ造成**
    - ・ 宮城オルレ新コースとして「蔵王・遠刈田温泉コース」を造成し、地域の新たな観光コンテンツの取組を開始した
- 



仙台駅行きの直行高速バス乗り場  
(大きな荷物を持った観光客が公共交通機関にて多数来訪)



新規観光コンテンツとして「蔵王・遠刈田温泉コース」を造成

## 4. 対策の概要

出典：国土地理院の地図データを加工して作成

## 目指す姿

生活と共存する観光資源を通して地域住民のシビックプライドを向上させた受入態勢づくりを行い、宮城オルレ蔵王・遠刈田温泉コースを歩く観光客がストレスフリーな旅を楽しみ高い満足度を目指す地域

## KGI

(指標) オルレイベント参加住民へのアンケート調査によるオルレに対する肯定的評価の割合

目標値：40%  
実績値：55%（令和7年度）

- ・ オルレコースオープンの際に同時開催される「アジア・トレイルズ・カンファレンス（ATC）」では約1,000人の旅行客受入が想定されるため、開催に合わせて事業を進めていく。
- ・ ATC後も地域への聞き取り調査を実施し、KGI達成に向けた振り返り等を行う。

## ■ 補助事業の実施概要

## 受入環境の整備・増強

## ① 遠刈田温泉街手ぶら観光によるストレスフリーな受入整備

## 【背景・課題】

- ・ 遠刈田温泉エリアには荷物を預ける設備が無く、観光客へのストレスが生じている

## 【事業内容】

- ・ 高速バス停留所前にキャッシュレスオンリーロッカーを設置してストレスフリーな手ぶら観光促進を実施

## マナー違反の防止・抑制

## ② 観光振興の地域活用におけるマナー違反行為防止抑制看板設置

## 【背景・課題】

- ・ オルレコースでは住民生活道路や私有地の使用があり、マナー違反行為等に対する不安が生じている

## 【事業内容】

- ・ 私有地へのゴミのポイ捨て等の防止・抑制看板を多言語にて設置し、スタート地点にはマナー違反行為防止周知用のデジタルサイネージを設置する



②

③④

①

## 地域住民と協働した観光振興

## ③ オルレを通じた地域住民と観光客の交流イベント実施

## 【背景・課題】

- ・ オルレコース造成にかかる周知を町広報誌や該当エリアでの住民説明会にて実施し近い促進を図ってきたが、積極的な関わりが薄く観光客の受入態勢までは整っていない

## 【事業内容】

- ・ 地域住民と観光客の交流を図るイベントを実施し、地域での観光の恩恵を再認識させてシビックプライドを向上させる

## 地域全体の観光地域づくりに関わる事業

## ④ 地域資源を活用した観光振興へのガイド人材育成計画策定

## 【背景・課題】

- ・ 地域内での観光人材育成計画を策定し、オルレでの持続可能な観光コンテンツを提供できる態勢を整備する

## 【事業内容】

- ・ 一定程度の講座参加を条件とした「オルレガイド」を育成して質の高いガイド人材を確保することで、旅の満足度向上によるKGI達成に繋げる

### KGI：オルレに対する住民の肯定的評価の割合

- 測定手法：オルレイベント参加住民へのアンケート実施  
オルレコース上の地域住民への調査  
オルレガイドのうち地域住民への調査
- 現状値：0%（計測値なし）
- 目標値：40%（令和7年度）
- 実績値：55%（令和7年度）

- オルレコースには住民生活道路や私有地があり、マナー違反行為等に対する不安の声がある

### 観光振興の地域活用におけるマナー違反行為防止抑制看板設置

- KPI**
- ①「看板の設置はマナー違反防止に効果がある、ありそう」と回答した住民の割合  
令和7年度 目標値：80%以上、実績値：90%
  - ②「観光客によるマナー違反に関して懸念がある」と回答したの割合  
令和7年度 目標値：25%以下、実績値：20%

- 大きな荷物を預けられる場所がない
- 観光案内所で荷物預かりを行っているが、業務外のサービスであり、セキュリティや管理が整備されていない

- KPI**：①ロッカー設置がオルレの手ぶら観光に「有効である」と答えた人の割合  
令和7年度 目標値：80%以上、実績値：88%
- ②ロッカー設置はオルレの手ぶら観光の施策として「十分である」と答えた人の割合  
令和7年度 目標値：75%以上、実績値：76%

### 遠刈田温泉街手ぶら観光によるストレスフリーな受入整備

キャッシュレスコインロッカーの設置  
(遠刈田温泉 バス停前)



- 訪日外国人旅行者の受入への不安や理解不足があり、住民の積極的な関わりが薄い

### オルレを通じた地域住民と観光客の交流イベント実施

### 地域資源を活用した観光振興へのガイド人材育成計画策定

- KPI**：参加地域住民数  
目標値：令和7年度 50名  
令和9年度 100名  
実績値：令和7年度 3名

- KPI**：オルレガイド登録数  
目標値：令和7年度 15名  
令和9年度 25名  
実績値：令和7年度 17名

出典：国土地理院の地図データを加工して作成

**S** オルレコースのスタート地点 **F** オルレコースのフィニッシュ地点 — オルレコース

## 5-①. 主な取組（詳細）

## 受入環境の整備・増強

補助事業①	遠刈田温泉街手ぶら観光によるストレスフリーな受入整備		
事業目的	キャッシュレス対応コインロッカー導入による手ぶら観光の促進		
実施主体	宮城県蔵王町	実施期間	令和7年10月～令和8年1月

## 【背景・課題】

- 東北最大の主要駅であるJR仙台駅からの直行高速バスやJR白石駅・JR白石蔵王駅からの路線バスが運行しておりアクセスは良いが、大きな荷物を預ける設備が無いため観光客へのストレスとなっている
- 蔵王町観光案内所では一時的な荷物の預かりは実施しているものの、業務外のサービスであるためセキュリティや管理の整備が無く、トラブルになる可能性がある

## 【事業内容】

- 遠刈田温泉街のバス停留所前にロッカーを設置する
- 売上金回収や維持管理等の業務負担を鑑みて、キャッシュレス対応スマートロッカーを導入する



観光案内所内での一時的な預かり状況

## 【推進ポイント】

- これまでの観光目的の旅行者と合わせて、オルレコース開設に伴うトレッキングを行う観光客からのニーズも高く、エリア全体で観光客への利便性向上が見込まれる
- 蔵王町観光案内所での手荷物預かりサービス等の検討も行ったが、荷物を管理する環境整備やセキュリティが不十分であること、人員不足による案内所機能の低下が懸念されることから、持続可能な手ぶら観光の提供が可能となるキャッシュレス対応スマートロッカーを導入する
- 利用者へのアンケートを実施して観光客の満足度を把握し、必要に応じて（一社）蔵王町観光物産協会や観光事業者との協議の場を設ける
- 観光庁が提示しているピクトグラム等を用いて手ぶら観光の促進に努め、ロッカー設置の周知広報とあわせた利用率向上を図る

補助事業①

遠刈田温泉街手ぶら観光によるストレスフリーな受入整備

令和7年度事業の目標 (KPI)

- 指標名
- ①ロッカー設置がオルレの手ぶら観光に「有効である」と答えた人の割合
  - ②ロッカー設置はオルレの手ぶら観光の施策として「十分である」と答えた人の割合  
(①②ともに、地域住民でオルレに詳しい方、ガイドの方を調査対象者とする)

令和7年度に掲げた目標値

- ①80%以上 (令和7年度) / ②75%以上 (令和7年度)

事業の成果/目標の検証結果

- ①88% / ②76% (計測期間：令和8年1-2月)

成果の詳細

- 令和7年11月に開催を予定していたオルレコースオープンに向けて事業を進め、開催1週間前には設置が完了した
- これまで蔵王町観光案内所で事業外サービスとして手荷物を預かっていたが(2~3回/週)、設置後はロッカーの案内をすることで預かりは0となった
- KPIの効果検証では、約9割が「有効である」、うち33%(全体で30%)は「とても有効である」と回答した



バス待合所内にキャッシュレス対応スマートロッカーを導入

令和7年度事業を踏まえた継続課題

- 大規模イベントの延期による効果測定の未実施**
  - 令和7年11月に予定していたオルレコースのオープンイベントの開催が令和8年4月17日に延期となったため、実際にオルレコースを利用した旅行客に対するロッカー設置や手ぶら観光に関する効果の測定ができなかった
- 設置台数や多言語対応への懸念**
  - ロッカー設置の有効性を効果検証として行った際に、設置台数の少なさや多言語対応への懸念の声があった

令和8年度以降の方針

- ロッカーの利用状況や観光客のニーズ・満足度の把握**
  - 本事業にて設置したロッカーを今後も継続して活用し、利用状況を把握するとともに、オルレコースを利用した旅行客にアンケート調査等を通じて満足度や他に必要とする設備等のニーズを把握し、手ぶら観光の推進を図る
- 周知と利用促進**
  - 設置したロッカーの観光客への周知や利用促進を通じて利用を促すとともに、利用状況や観光客のニーズ・満足度等の効果検証を踏まえて、本取組を継続・改善を図る

## 5-②. 主な取組（詳細）

## 地域住民と協働した観光振興

補助事業③	オルレを通した地域住民と観光客の交流イベント実施		
事業目的	住民と観光客の交流による地域における観光の恩恵を創出		
実施主体	宮城県蔵王町	実施期間	令和7年10月～令和7年11月

## 【背景・課題】

- ・ オルレコース造成にかかる周知を町広報誌や該当エリアでの住民説明会にて実施して理解促進を図ってきたが、積極的な関わりが薄く観光客の受入態勢までは整っていない

## 【事業内容】

- ・ 観光地として住民の生活と共存している遠刈田温泉エリアを活用したオルレコースで住民と観光客が交流できるイベントを実施し、地域での観光の恩恵を再認識させてシビックプライドの向上と地域住民の観光客受入に対する機運醸成を図る

## 【推進ポイント】

- ・ これまでも観光地として生活の中に観光客を受け入れる環境はあったものの、宿泊施設や観光誘客施設に限定された場所であったため、本イベントの実施を通して地域住民の観光客受入に対する機運醸成をする機会を創出する
- ・ 参加者へのアンケート調査を実施して、必要に応じた協議の場を設ける
- ・ 継続的にイベントを実施し、地域全体での持続可能な観光受入態勢を整備する
- ・ 参加者属性ごとに以下の周知を行い、認知度・参加者の向上を図る
  - 地域住民：住民が来場する町内イベントにて、オルレPRブース内にチラシを配架
  - 地域活動団体：各団体院向けの情報周知
  - 観光客：近隣コースのオルレイベント参加者へチラシの配布



←イベント受付  
参加者タグやゴミ拾い  
イベント用の備品を配布



←スタート地点から町職員のガイド  
で始まった  
暴風警報発令のため、イベント内容  
は一部変更



←参加者の様子

補助事業③

オルレを通じた地域住民と観光客の交流イベント実施

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 参加地域住民数

令和7年度に掲げた目標値

- 50名 (令和7年度)

事業の成果/目標の検証結果

- 3名 (令和7年度)

成果の詳細

- 令和7年11月1日にプレイイベントを開催し、参加者は全体で43名（100名想定）、参加者のうちオルレのコースとして設定されている行政区からの参加者は3名であった（申込人数50名）
- 地域住民と観光客の参加者タグを色分けしていたため、コースの見どころなどの会話から地域住民と観光客とが互いの交流が図られていた
- 観光客が初めてオルレを歩くイベントであったため、コースオープン前の地域住民の受入態勢の整備に繋がった

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 住民参加の拡大

- イベント開催時期が「宮城県ツキノワグマ人身被害防止強化月間」であったことから、地域住民からの参加者は当初目標としていた人数に達しなかった。また、イベント当日に暴風警報が発令され、当日キャンセルが発生した
- 参加者の安全を考慮し、当日はイベント内容を一部変更して実施することとなった

2 イベント認知度の向上

- 令和7年度より新たに開始したイベントであることから、地域住民からの認知度が低く、地域住民の参加に繋がらなかった

令和8年度以降の方針

1 地域住民の関心・参加意欲向上の取組

- 地域住民のオルレに関する関心を高める取組として、オルレに関する地域住民向けのイベントや講座等を実施する。地域住民への認知度向上に向けて、町広報誌やHPを活用した地域住民への情報接触機会を増やす取組を行うとともに、令和8年4月17日のオルレコースオープンに向けて、町広報誌に掲載し地域住民への認知度向上を図る
- イベント実施時には、参加者も安心して参加してもらえるよう安全措置を十分に講じるとともに、その内容を参加者に周知する

2 イベントの継続的な開催

- 観光客と地域住民の交流機会を創出することにより、地域住民の観光客受入の機運醸成につながるため、イベントを継続的に実施する

## 5-③. 主な取組（詳細）

## 地域全体の観光地域づくりに関わる事業

補助事業④	地域資源を活用した観光振興へのガイド人材育成計画策定		
事業目的	地域全体での観光人材育成機会創出持続可能な観光ガイドの確保		
実施主体	宮城県蔵王町	実施期間	令和8年1月～令和8年2月
<p><b>【背景・課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内での観光人材育成計画を策定し、中長期的なビジョンを設計する</li> <li>一定程度の講座参加を条件とした「オルレガイド」を育成して質の高いガイド人材を確保することで、旅の満足度向上によるKGI達成に繋げる</li> </ul> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内での観光人材育成計画を策定し、オルレでの持続可能な観光コンテンツを提供できる態勢を整備する</li> <li>地域活動団体へ地域資源を活用した観光振興について理解と認知度の向上を目的としたセミナーを開催する</li> <li>国内外の旅行客をいつでも誰でも受け入れられる態勢を整えるため、地域資源を活用した観光コンテンツをガイドする動画を作成する</li> </ul> <p><b>【推進ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遠刈田温泉エリアでは、宮城蔵王ガイド協会・蔵王古道の会・蔵王ジオガイドが各々活動しているため、宮城オルレコースオープンを機に地域づくりへの理解・認知度向上の場を設ける</li> <li>本事業においては、上記地域活動団体を中心として、オルレへの興味・関心が高い人材を育成するとともに、蔵王ジオパークの知識を有した蔵王ジオパーク認定ガイド（独自の講義を一定数受講して認定を受けたガイド）を育成する</li> <li>セミナーを開催しながら地域活動団体と継続的に意見交換の場を設けて、地域全体での持続可能な観光受入態勢を整備する</li> </ul>			

補助事業④

地域資源を活用した観光振興へのガイド人材育成計画策定

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名	オルレガイド登録数	
令和7年度に掲げた目標値	▶	事業の成果/目標の検証結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>15名 (令和7年度)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>17名 (令和7年度)</li> </ul>

成果の詳細

- 令和8年1月17日にオルレガイド人材育成研修会を実施し参加者は23名であった。研修会後のオルレガイド登録者は17名で、地域活動団体が全体の約90%となり、初めてガイドに参加する町民もみられた
- オルレガイド登録者が計画時の目標値を上回る人数となり、高い関心を持つ地域活動団体と地域住民が一体となった受入態勢に繋がるような成果がみられた
- 観光人材育成計画を策定する際に、オルレガイドに高い関心を持つ育成研修会申込の段階からアンケートを実施して幅広い意見聴取を実施したことで、具体化した計画策定に繋がった
- ガイド人材育成研修会にてワークショップを実施し、動画に使用するガイド情報だけでなく参加者同士の交流やガイドとしての取組について積極的な意見交換の場となった

令和7年度事業を踏まえた継続課題

① オルレガイドの質・活動の場の提供

- 令和7年度のオルレガイド登録者数は17名と目標を上回り、初めてガイドに参加する地域住民もいた。ガイド登録者が継続的に活動できる場を提供する必要がある

② ガイドの人材確保

- 令和7年度のオルレガイド登録者数は17名となったが、令和8年度以降も継続して登録者の増加を目指す必要がある

令和8年度以降の方針

① 継続的な活動の場の提供

- オルレガイドの登録者の質の維持向上および継続的にガイド活動が実施できるよう、継続的に活動の場を提供し、観光ガイドとしての役割を担うことで地域活性を図る

② 新たな人材育成機会の創出

- 地域住民のオルレに関する関心を高める取組や、オルレガイドの活動の場を継続的に提供することで、オルレガイドへの関心を高め、新規の人材獲得を目指す
- オルレガイドの活動を通じて、研修コンテンツの拡充を行う